

2007年6月20日、韓国で初のSRI国際会議（SRI International Conference 2007）が開催されるということで、弊社も参加してまいりました。当日は国連環境計画金融イニシアチブ（UNEP FI）や海外の調査機関を含め、韓国の企業、投資家、証券会社や銀行、政府の財務部などから、約250名の参加者が集まりました。

韓国では、ここ2~3年の間にSRIという考え方が広まりました。アメリカのエンロン社をめぐる不正会計事件など、過去のガバナンス的な問題や環境保護といった観点から、リスクマネジメントの一つとして長期的な見通しをもった投資の必要性が語られるようになったようです。

この国際会議を主催したのは、世界で6番目の総運用資産を持つ韓国の国民年金管理公団（National Pension Service）で、2006年からSRIを始めています。現在、6人のSRIファンド・マネージャーが3000億ウォン（約390億円/6月25日現在換算レート）を運用しており<sup>1</sup>、今後も継続的に拡大していく計画です。

このような公的機関がSRIを導入し、SRIの国際会議を主催したということから、国全体でSRIを推進していこうとする熱気を感じられます。ただし、SRIに対する認知度はまだ低く、いかに国民に周知していくかが今後の課題です。「海外のSRIファンドのように社会的ムーブメントとなるよう、理解を求めていきたい」と、政府も熱心な態度を見せており、今後の韓国でのSRIの発展が期待されます。

その場では、国連の責任投資原則（Principles of Responsible Investment）の署名式も行われ、証券会社をはじめ6機関が署名しました。韓国では2001年のエコ・ファンドにはじまり、2005年から本格的にSRIファンドが登場してきましたが、既に6000億ウォン（約780億円）が12のSRIファンドで運用されています。また、韓国の企業もCSRに関する報告書を発行し始めています。現在、25社ほどが「Sustainable Report」を、うち1社が「CSR Report」を発行しています。韓国では、「CSR」よりも「サステナビリティ」という言葉の方が好まれて使われているようです。これは、家族を大事にするという国民性から、次世代に対する思いが強いためでしょうか。

まだ、「SRI」という言葉の定義は曖昧ですが、韓国独自のスタンダードを作ろうとしています。重要なことは、SRIは政府と企業と社会が共にはたらきかけることができる場であるということで、日本でもこの3者のコミットメントがより求められるようになるのではないのでしょうか。アジアでのSRIの流れが、大きく動き始めていることを感じた会議でした。

<sup>1</sup> 文中に出てくる数値は全て2007年6月、この会議の主管を努めたEco-Frontierが発表したものです。